

月刊 河井克行



平成二十四年五月一日号【第十号】
衆議院議員 河井克行事務所
自由民主党広島県第三選挙区支部
国会事務所 TEL:03-3508-7518 FAX:03-3508-3948
広島事務所 TEL:082-832-7301 FAX:082-878-3301
ブログ「あらいぐまのつぶやき」 <http://kawai.fine.to/katsu>

党地方組織・議員総局長として、大震災がれきの受け入れを働きかけ

自民党地方組織・議員総局長を務める河井克行代議士は、「災害廃棄物を受け入れる決議を積極的に地方議会で採択してほしい」とする幹事長、組織運動本部長、地方組織・議員総局長連名の文書を二度(2月28日付、3月14日付)、全国の自民党都道府県連会長らに発出しました。それにこたえ、4月27日現在で道府県26議会、指定都市が5議会、市町村46議会、あわせて77議会で、災害廃棄物を受け入れる決議や意見書が採択されました。

今年も東京で「ゆめづくりフォーラム」を開催

4月18日(水)、ルポール麹町において、14回目の「ゆめづくりフォーラム in TOKYO」が開かれ、河井克行代議士と親交のある国会議員や経済人らが大勢ご来場。国際政治学者として知られるかたわら、医政に詳しい武見敬三・元参議院議員が「責任ある成熟国家日本の再建」と題した講演を行いました。尖閣諸島国有化などの外交問題と、人口減少社会の到来を踏まえた内政問題を、ともに解決できる政治家としての河井克行代議士への期待を熱っぽく語りました。



写真:(左から順に)武見敬三・元参議院議員、鳩山邦夫・元総務大臣、塩崎恭久・元官房長官、町村信孝・元外務大臣、中川秀直・元党幹事長、塩谷立・党総務会長

放射線影響研究所に眠っていた約 13,000 人分の情報公開を

放射線影響研究所(南区・前身は原爆傷害調査委員会 ABCC)が1950年から56年の間におよそ12万人を対象に行った面接調査の中で、約1万3千人が“黒い雨”を浴びたと回答していたことが、昨年11月に明らかになりました。同研

研究所の運営費の半分以上を日本の厚生労働省が支出していることから、河井克行代議士は4月13日の衆議院厚生労働委員会でこの問題を取り上げました。小宮山洋子・厚生労働大臣に対して、①これらの貴重なデータを他の研究機関と共有して、“黒い雨”の実態解明に活用すべき、②五月中にも開かれる“黒い雨”の援護対象区域見直しを検討する厚生労働省有識者検討会最終会合で取りまとめられる最終報告書案にこれらのデータを盛り込むべき、③“黒い雨”の影響を精神的なものに限定するのはおかしい。がんや心臓疾患などを引き起こしたことを認めるべき、と迫りました。それぞれへの答弁は、①公開できるものは公開したい、②科学的に妥当なデータは最終報告書案に盛り込みたい、③精神的な健康状態に限らないということはおっしゃるとおり、などと、どちらにも受け取られる答えに終始しました。残念なことに、67年前に起きたことを直視しようという真摯な姿勢を厚労大臣に見ることはできませんでした。



安佐南区山本地区「やん谷川」砂防整備 今年度調査開始決定 里山環境保全みどり会の働きかけが実る

里山環境保全みどり会(稲田武義会長)は、安佐南区山本学区の山(武田山・火山・丸山)を、土地所有者の理解を得て保全・整備し、会員が自ら楽しみながら、子どもからお年寄りまで広く市民に喜んでもらえるような里山づくりを進めています。また、同会は山本地区を土石流が繰り返し襲った事実警鐘を鳴らし、対策をとるよう河井克行代議士に訴えてきました。

今年の二月、稲田武義会長がかねてより危険性を指摘していた西山本の上にある「やん谷川」をみどり会と広島県が合同現地調査を行いました。その結果、国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所が砂防整備を担当し、今年度に調査開始することとなりました。みどり会の運動がなければ、普段は水量が少ないこの小さな川の危険性を国が認識することはありませんでした。早期の工事着工が実現するよう、河井克行代議士は力を尽くします。

